

既にそこにあるもの

太田伸朗展

2023.8.5 [土]

9.18 [月・祝]

富山県美術館

〒930-0806 富山県富山市本場町 3-20
3-20 Kiba-machi, Toyama City, Toyama, 930-0806, Japan
<https://tad-toyama.jp>

Shinro Ohtake

開館時間：9時30分 - 18時（入場は17時30分まで）

休館日：毎週水曜日

主催：富山県美術館、東京国立近代美術館、北日本新聞社、北日本放送

協賛：株式会社ベネッセホールディングス、公益財団法人 福武財団

富山展協賛：五洲薬品、ダイト、立山科学グループ、

ユニゾーン、リードケミカル（五十音順）

特別協力：TAKE NINAGAWA

Opening Hours: 9:30 AM-6:00 PM (Last admission is 5:30 PM)

Exhibition Closed: Every Wednesday

*Check the museum website for news and notices prior to your visit.

殊景 01 *Mnemoscape 01*
212 x 161 x 16 cm
2022.1.31、作家蔵

© 2022 Shinro Ohtake
Courtesy TAKE NINAGAWA, Tokyo
Photo by Okano Kei

富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art & Design

SHIRO OHTAKE

あらゆる「もの」は画材である



4つのチャンス | *Four Chances*
1984 / 162×162 cm



網膜 / 太陽風 I | *Retina / Solar Wind I*
1990-2020 / 230×170×10 cm



時憶 / フィードバック
Time Memory / Feedback
2015 / 42×42×96 cm



スクラップブック #50
(網膜 / 銀色のチーズ) / 宇和島
Scrapbook #50
Retina / Silver Cheese / Uwajima
1992 / 67.1×56.8×9.4 cm
84 pages / 23.1 kg



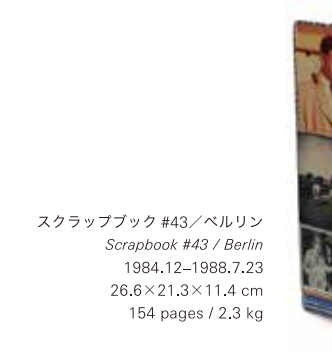
ジェノヴァ | *Genoa*
1985 / 190×185 cm



憶景 14 | *Oku-Kai 14*
2018 / 153×133×9.2 cm



時憶 30 | *Time Memory 30*
2018 / 200×150×10 cm



スクラップブック #43 / ベルリン
Scrapbook #43 / Berlin
1984.12-1988.7.23
26.6×21.3×11.4 cm
154 pages / 2.3 kg



スクラップブック #1 / ロンドン
Scrapbook #1 / London
1977 / 21.5×13.2×3.6 cm
196 pages / 0.4 kg



モンシェリー：スクラップ小屋としての自画像
MON CHERI: A Self-Portrait as a Scrapped Shed
2012 Photo: 山本真人 Yamamoto Masahito



豆腐屋のとんかつ | *Tofuya Tonkatsu*
2015.9.15 / 53×45.5 cm

EZMD I
1984 / 194×162 cm



本展は、高度成長期の東京に生まれ育った大竹伸朗の軌跡を7つのテーマ―「自／他」「記憶」「時間」「移行」「夢／網膜」「層」「音」―に基づいて読み解く回顧展です。

大竹伸朗 (1955-) は、1980年代初めに華々しくデビューして以来、絵画、版画、素描、彫刻、映像、絵本、音、エッセイ、インスタレーション、巨大な建造物に至るまで、猛々しい創作意欲でおびただしい数の仕事を手掛け、トップランナーであり続けてきました。近年ではドクメンタ (2012) とヴェネチア・ビエンナーレ (2013) の二大国際展に参加するなど、現代日本を代表するアーティストとして海外でも評価を得ています。

2006年に開催された「全景 1955-2006」以来の大規模な回顧展となる本展では、国際展に出品した作品を含む総数およそ100点の圧倒的な量の空間をご覧いただけます。

あらゆる素材、あらゆるイメージ、あらゆる方法。作者が「既にそこにあるもの」と呼ぶテーマのもとに半世紀近く持続してきた制作の軌跡を辿るとともに、時代順にこだわることなく作品世界に没入できる展示によって、走り続ける強烈な個性の脳内をめぐるような機会となるでしょう。



ダブ平&ニューシャネル | *Dub-Hai & New Chanell*
1999 / 450×530×310 cm (stage) 公益財団法人 福武財団



ゴミ男 | *Rubbish Men*
1987 / 405×405×20 cm
東京都現代美術館 / Photo: 木奥恵三 Kioku Keizo



ティーチング・オブ・イスラムⅢ
Teaching of Islam III
1985-87 / 225×170.5×100 cm
公益財団法人 福武財団



スクラップブック #67
／宇和島
Scrapbook #67 / Uwajima
2014
47×47.5×74 cm
435 pages / 29.5 kg



芥子 / 音影Ⅱ
Poppy / Sound Shadow II
2008 / 125×105×8.5 cm
愛媛県美術館



Wallpaper
1978-79 / 162×162.5 cm



家系図 | *Family Tree*
1986-88 / 265×253×20 cm
セゾン現代美術館



網膜 (ニュー・トン・オブ・タンジェ I)
Retina (New Tong of Tangier I)
1992-93 / 216×212×82 cm



スクラップブック #71
／宇和島
Scrapbook #71 / Uwajima
2018.9.10-2021.1.31
33×85.5×40.4 cm
574 pages / 17 kg



網膜 #1 (白ナイル)
Retina #1 (White Nile)
1988-90 / 250×180.5×7.5 cm
個人蔵



網膜 (クレバス) | *Retina (Crevasse)*
1990 / 300×230×11 cm



メンフィス #2 | *Memphis #2*
1989 / 252×180×4 cm 個人蔵



網膜 (窓) | *Retina (Window)*
1989 / 60×34.5 cm



スクラップブック #65
／宇和島
Scrapbook #65 / Uwajima
2005.3-2010.5.20
54×47×80 cm
895 pages / 28.9 kg



ティーチング・オブ・イスラムⅠ
Teaching of Islam I
1983 / 117×117 cm



ティーチング・オブ・イスラムⅡ
Teaching of Islam II
1983 / 117×117 cm



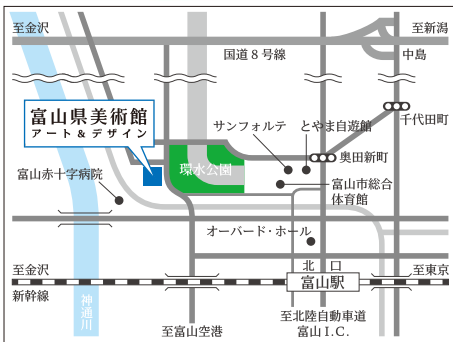
ナイロビでの私の生活 | *My Life in Nairobi*
1984 / 121.5×121.5 cm 公益財団法人 福武財団



ニューシャネル | *New Chanell*
1998 / 179×73.5×16.6 cm



スクラップブック #64 / 宇和島
Scrapbook #64 / Uwajima
2003-05
50.6×54×62.2 cm
822 pages / 29.4 kg



※美術館の駐車場 (8:00-22:30) は限りがあり、土日祝は混雑が予想されます。お越しの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。満車の際は、環水公園立体駐車場など周辺駐車場をご利用ください。

富山県美術館
Toyama Prefectural Museum of Art and Design

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20
3-20 Kiba-machi, Toyama City, Toyama, 930-0806, Japan
TEL: 076-431-2711 / FAX: 076-431-2712 https://tad-toyama.jp

【アクセス】

▶富山駅北口から
徒歩：約15分／タクシー：約3分／バス：1番のりばより乗車
「富山県美術館」下車すぐ
▶富山空港から
タクシー・車：約20分 (約9km)
▶北陸自動車道から
富山 I.C. から国道 41 号 経由
約15分

●観覧料

一般：900 円 (700) / 一般前売り：700 円
大学生：450 円 (350)

高校生以下無料

※ () 内は 20 名以上の団体料金
※企画展入場当日に限りコレクション展もご覧いただけます。
※各種手帳をお持ちの障がい者の方および付添者 1 名の観覧は無料
※学校観覧、社会教育活動としての児童・生徒の引率者は無料
※「リピーター割」「クマ割」などの各種割引や、オンラインチケット販売を実施中。詳細についてはホームページをご覧ください。

●チケット販売

当日券：富山県美術館
前売り券販売所 (2023 年 8 月 4 日まで販売)：富山県美術館、富山県水墨美術館、アーツナビ、e-tix

●ご来館される皆様へ

・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

・記載内容は都合により変更する場合があります。当館ホームページ、SNS 等をご確認のうえ、ご来館されることをお勧めいたします。

●関連イベント

詳細は、当館ホームページと SNS でお知らせします。

●次回企画展

「金曜ロードショーとジブリ展」
10 月 7 日 (土) ~ 2024 年 1 月 28 日 (日)

Fee for special exhibition

Adults: ¥900 (700) / Advance ticket: ¥700
College students: ¥450 (350)

* () = Fee for group tickets

* High school students or younger free

Please read notice on the museum website prior to your visit.

●大竹伸朗展公式サイト

https://www.takeninagawa.com/ohakeshinroten/



大竹伸朗

1955 年東京都生まれ。主な個展に熊本市現代美術館 / 水戸芸術館現代美術ギャラリー (2019)、パラソルユニット現代美術館 (2014)、高松市美術館 (2013)、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (2013)、アートソングセンター (2012)、広島市現代美術館 / 福岡市美術館 (2007)、東京都現代美術館 (2006) など。また国立国際美術館 (2018)、ニュー・ミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート (2016)、バービカン・センター (2016) などの企画展に出演。ハワイ・トリエンナーレ (2022)、アジア・パシフィック・トリエンナーレ (2018)、横浜トリエンナーレ (2014)、ヴェネチア・ビエンナーレ (2013)、ドクメンタ (2012)、光州ビエンナーレ (2010)、瀬戸内国際芸術祭 (2010、13、16、19) など多数の国際展に参加。また「アゲインスト・ネイチャー」(1989)、「キャビネット・オブ・サインズ」(1991) など歴史的に重要な展覧会にも多く参加している。

作家サイト https://www.ohakeshinro.com

Shinro Ohtake

Born 1955 in Tokyo, Japan, Major solo exhibitions include Contemporary Art Museum, Kumamoto / Contemporary Art Gallery, Art Tower Mito (2019); Parasol Unit, London (2014); Takamatsu City Museum of Art (2013); Marugame Genichiro Inokuma Museum of Contemporary Art, Kagawa (2013); Artsonje Center, Seoul (2012); Hiroshima City Museum of Contemporary Art / Fukuoka Art Museum (2007), and the Museum of Contemporary Art Tokyo (2006). Group exhibitions include the National Museum of Art, Osaka (2018); the New Museum, New York (2016); and Barbican Art Gallery, London (2016). Among the many international art festivals in which Ohtake has participated are Hawaii Triennial 2022, the 9th Asia Pacific Triennial (2018), Yokohama Triennale 2014, the 55th Venice Biennale (2013), documents 13 (2012), the 8th Gwangju Biennale (2010), and the Setouchi Triennale (2010, '13, '16, '19). He has also participated in such historically significant exhibitions as "Against Nature: Japanese Art in the Eighties" (1989), "A Cabinet of Signs: Contemporary Art from Post-Modern Japan" (1991), and the 1st Asia Pacific Triennial (1993).